



歯科学と経営学の融合 歯科医院「経営の心得」

古山和弘、井上善海、小原啓子、伊藤尚史 著

A5判

160p

3,150円

医歯薬出版

本書は、著者の一人である小原啓子氏が代表を務めるデンタルタイアップが、2012年2月に東京で開催した復興支援研修会「今だから考えなくてはならない。組織の中で働くとは生きるとは。歯科学と経営学の融合から、なすべきことを創造する」での講演内容をまとめたもの。

古川和弘氏は松下政経塾塾頭として主に人材育成について、井上善海氏は広島大学大学院のマネジメント専攻教授として主にリーダーシップについて、伊藤尚史氏は歯科開業医として主にスタッフの意識改革について述べ、小原氏が総括的に、経営理論を歯科医院経営へ落とし込んだ事例を紹介している。

本書を大まかに捉えれば、歯科医院の組織論といえるだろう。歯科医師がスタッフを「ウチの女の子」的な意識で扱うような時代ではなくなっているが、かといって、一般企業並みのシステム経営を一般的な歯科医院に導入するには肩が凝る。本書は、身近なところから組織としての歯科医院を見直し、最終的にはかけがえない「人財」を作り出す経営を提唱するもの。

現在、医療、特に歯科領域は、院長やスタッフの人間性や態度が、患者満足だけでなく医療技術評価にも影響を与えることを示唆するデータが出る時代になった。歯科医院における人材育成の意義は、他業界よりもはるかに重いといえよう。